

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【公開番号】特開 2005-104746 (P2005-104746A)
 【公開日】平成 17 年 4 月 21 日 (2005.4.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-016
 【出願番号】特願 2003-336790 (P2003-336790)
 【国際特許分類】

C 0 4 B 35/111 (2006.01)

H 0 1 L 21/683 (2006.01)

【F I】

C 0 4 B 35/10 D

H 0 1 L 21/68 R

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 6 月 12 日 (2006.6.12)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 8】

本発明に係るアルミナ質セラミック板は、酸化アルミニウム (Al_2O_3) の含有量が 8 2 w t % 以上で且つ酸化チタン (TiO_2) が非含有のアルミナ質セラミック板であって、このアルミナ質セラミック板には、酸化イットリウム (Y_2O_3) が 2 ~ 9 w t %、好ましくは 2 . 4 5 ~ 8 w t % 含有されている。

ここで、酸化イットリウム (Y_2O_3) の含有量が 2 w t % 未満のアルミナ質セラミック板では、室温 ~ 4 0 0 における体積固有抵抗値の温度依存性が大きくなる。一方、酸化イットリウム (Y_2O_3) の含有量が 9 w t % を越える場合には、焼成又は熱処理の際に、アルミナ質セラミック板にクラック等が発生し易くなる。

また、酸化チタン (TiO_2) を含有するアルミナ質セラミック板であってもよいが、酸化チタン (TiO_2) の含有量は 0 . 5 w t % 以下とすべきである。酸化チタン (TiO_2) の含有量が 0 . 5 w t % を越えるアルミナ質セラミック板では、室温 ~ 4 0 0 における体積固有抵抗値の温度依存性が大きくなる。

尚、アルミナ質セラミック板に含有される酸化チタン (TiO_2) の含有量の下限は、0 . 2 w t % とすることが好ましい。